

令和元年度 重点課題（学校アクションプラン）の取組について

今年度の学校アクションプランとして設定した三つの重点課題について、取組の様子をお知らせします。

アクションプラン1 <防災体制の整備>

災害発生時に備え、児童生徒の引渡し時に確実に保護者に引き継ぐための体制整備をより一層充実するとともに、教職員一人一人が学校防災マニュアルの内容を理解し、防災に対する意識をより高めることが必要であると考え、次のような取組を行いました。

- ・引渡し訓練の実施に当たっては、事前に引渡しに関する研修会を実施し、引渡し決定から完了までの流れや教職員一人一人の役割を確認して共通理解を図りました。
- ・訓練後に保護者と教職員を対象に実施したアンケート結果では、実際に引渡しが行われることになった場合には駐車場や通信障害が危惧されるという意見が多く見られ、対応策について検討しました。
- ・「登下校中に災害が発生したときの対応」「校外学習に災害が発生したときの対応」「学校再開にむけた対応」について、学校防災マニュアルを活用した学習会を行いました。校外や登下校時に災害が発生した場合の対応や教職員一人一人の役割を確認しました。

これらの取組を行ったことで、引渡し体制をより一層充実するとともに、教職員がいろいろな視点から問題を捉え、より現実的な方策を話し合うなど、災害時に備えて意識を高めることができました。今年度の取組を今後の訓練や学校防災マニュアルの改善等に活かしていきたいと考えています。



アクションプラン2 <食物アレルギーに関する理解の促進>

食物アレルギーのある児童生徒が学校生活を安全に安心して過ごすためには、教職員が食物アレルギーやアナフィラキシーについて正しく理解し、リスク管理や緊急時対応訓練を実施するとともに、食物アレルギーのある児童生徒や周囲の児童生徒への指導が必要と考え、以下のような取組を行いました。

- ・全教職員を対象に初級救命講習会を実施しました。婦中消防署の救急救命士による心肺蘇生法とAEDの使い方に関する講義、養護教諭による食物アレルギーのある児童生徒の実態やエピペン®の投与のポイント等の研修を実施しました。
- ・緊急時の連絡を速やかに行うため、新たに緊急対応ファイルを作成し、緊急時対応訓練で活用しました。緊急対応ファイルの中には、現場アクションカード（突発的なことが起こったときに現場に居合わせた教職員が的確に判断しながら行動できるように、具体的な指示が書いてあるカード）、学校での救急及び緊急連絡体制、緊急指示リスト等が入っています。
- ・食物アレルギーのある児童生徒がアナフィラキシーショック等を起こした時刻、場所等を想定して、小学部は学年で1回、中・高等部は学部で1回、緊急時対応訓練を実施しました。
- ・各学年の実態に応じて児童生徒を対象に、食物アレルギーに関する指導を行いました。アレルギー症状に関する言葉の使い方や説明方法、配慮事項等について話し合い、その上で、各学年の実態に応じた教材を作成したり、指導のまとめとしてイラストを用いたクイズを取り入れたりして関心をもてるようにしました。



実施後のアンケートでは、「救急車はどこに誘導したら一番近くてよいのか。」「校内放送を掛ける前に、すぐに救急車要請ではないか。」等の課題が明らかになりました。緊急ファイルの改善を行うこと、いざというときに適切に対応できるよう、今後も引き続き繰り返し訓練を実施していくことが必要であると考えています。

アクションプラン3 <教員のICT活用能力の向上>

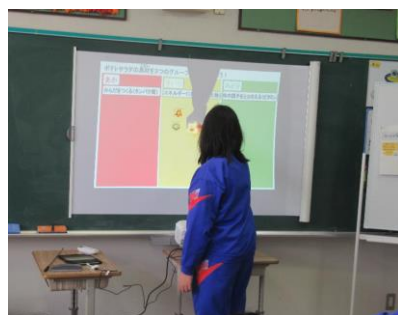
本校では、今年度ICT機器などのハード面が充実されることから、教員のICT活用能力の向上や、個人情報の取り扱い、セキュリティ面についてより一層研修を深める必要があります。また、新たに導入されるタブレット端末、プロジェクタ、スクリーン等を効果的に活用した授業について情報交換や研修会を行う必要があると考えました。そこで今年度は、

- ・富山県総合教育センターより講師を招き、情報セキュリティ、個人情報保護について研修会を行いました。
- ・本校教員によるタブレット端末やプロジェクタ等を効果的に使用方法についての実技講習と授業に有効なアプリの紹介を行いました。

ICT機器の活用に関する研修会では、個人情報保護や情報セキュリティについて教職員の知識を深めることができました。また、教職員がタブレット端末やプロジェクタ等を活用して授業実践を行いました。小学部の遊びの指導では、プロジェクタで床に投影したエリアを使った「引っ越し鬼」の授業、中学部の生活単元学習では、スクリーンに投影した三色食品群表に、直接食品群のカードを貼って分類する授業、高等部の自立活動では、タブレット端末の電車の線路を作成していくアプリを使った線を描く指導等、ICT機器を新しい手法で活用する授業が増えてきました。

これらの研修会や授業実践により、個人情報やセキュリティ、タブレット端末、プロジェクタ等についての知識、技能が高まり、教員のICT活用能力が向上してきたと考えています。

今後は、タブレット端末等を使った授業実践の質の向上や情報セキュリティ、個人情報保護について引き続き教職員の知識を高めるようにしたり、ICTを効果的に活用する取り組みについて、家庭に発信できるようにしたりしていきたいと思えます。



保護者の皆様からのご意見

- ・引き渡し訓練は大事なので、保護者も真剣に取り組むとよい。
- ・食物アレルギーとICTについての取り組みは、学校で行っているの保護者にはよく分からない。連絡帳やHPなどで様子を知らせてもらえると嬉しい。
- ・子供から「iPadで調べた。」などの言葉が聞かれるようになった。

学校評議員からの意見

<アクションプラン1について>

引き渡し訓練は、大事な訓練である。多くの人が訓練に参加できるように、開催方法の工夫をしてみるとよい。保護者は、数年に一度でも参加して、体で覚えてほしい。

<アクションプラン2について>

食物アレルギーをもつ児童生徒の食事について、安全面を徹底しながら食育の点で工夫している。それぞれの学年の児童生徒に応じた緊急時の訓練を継続して行うとよい。

<アクションプラン3について>

既存のアプリを児童生徒に合わせて少し改良して使うとよい。学校と家庭で情報交換し、学校で使っているアプリに似たものを家庭でも使うなどすると、家庭での学習や余暇活動に広げることができる。

学校評価アンケートから

保護者の皆様に学校評価アンケートをお願いしたところ、約87%の方より回答いただきました。お忙しい中、ご協力いただきありがとうございます。

数値としては、どの項目についても、概ね90%以上の評価をいただきましたが、自由記述の中でたくさんのご意見をいただきました。特にアクションプランについては、実際に保護者の方がその現場や授業を見ることができないため、評価しにくいという意見をいただきました。学校での取組について保護者の皆様への情報の発信内容や方法を工夫していきたいと思えます。また、玄関の施錠等安全対策や学習参観の曜日等についてのご意見もいただき、次年度の行事にも反映させるよう検討していきたいと思えます。今後も様々な機会を通じて情報を発信し保護者の皆様と共有しながら、学校運営を進めていきたいと思えます。